

---

# 青は藍より青し

きみえ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

青は藍より青し

### 【Nコード】

N4524D

### 【作者名】

きみえ

### 【あらすじ】

一本の電話が平凡な毎日を変えた

## 第1話：電話

僕は海の中にいた  
たった一人で海の中にいた

ゆつくりと流れる師走の夜  
机の上で雑誌に埋もれた携帯電話が動き始めた  
仕事が終われば鳴る事を忘れる電話が  
汚れた場所から逃げるように哀しく震える

智司ちしはベットから面倒くさそうに手を伸ばしその動きを制する。  
液晶には実家と表示し、慣れ親しんだ電話番号を映していた。

1年が終わろうとするとき、恒例行事のように母親が予定を尋ねてくる

「今年も、もうそんな時期か・・・」  
せめてもの親孝行に智司はベットに寝転がったまま、母親の声に耳を傾けることにした。

「いま大丈夫か？」  
その声は父親のものだった  
不器用な親父が電話をしてくることは無かった  
意外な声に智司は戸惑いながらも  
ベットから身を起こして

「ああ」と戸惑いを隠すように答えた

「お母さんが入院した。」

公務員を定年退職した父親は事務的に報告してきた

「入院？」

事故でも起こしたのだろうか

『体に良い』が大好きな母親が、怪我以外で入院するはずが無い

考える時間も与えずに父親は

「帰ってこれないか？」

と言葉を急いだ。

「見舞いにぐらいい行くけど、母さんも歳だし階段から落ちでもしたの？」

「いや、癌らしい」

父親は台本を読むようにそう言った

いま父親は間違いなく 癌 と読んだ

思いがけない声の電話が、思いもよらない単語を  
智司の耳に響かせた

言葉が出てこない

震えだす手を必死に止めながら 震え始めた声で

「冗談だろ？」

冗談を言わない父親に愚問を投げかけた

「いや、冗談じゃない」そう言うと父親は繰り返すように精一杯気  
丈に振舞う声で

「帰ってこれないか？ もうそんなに長くないみたいだ」と問いか

ける。

「帰れるようにする」

智司はそう答えるのが精一杯だった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4524d/>

---

青は藍より青し

2010年11月10日14時34分発行